

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 90分

## 解答形式

記述, 計算, 選択

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## 出題の特徴

従来通りの出題形式やレベルに戻った。

## その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

II (b) モル分率平衡定数について出題された。有効数字の指定がなかった。

III (b) イミド構造をもつ化合物について出題された。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 計算 選択	(a) 溶解度積 (b) 濃淡電池	化学	(a) 塩化銀とクロム酸銀の溶解度積を用いた, モール法の原理についての問題である。 (b) 溶解度積と濃淡電池を関連させた問題である。	標準
II	記述 計算 選択	(a) 電子式と分子・イオンの構造 (b) 気相平衡	化学	(a) 電子式を考え, 電子対反発理論から分子やイオンの形を考える問題である。 (b) 気相平衡について, 濃度平衡定数, 圧平衡定数, モル分率平衡定数について考える問題である。	(a) 標準 (b) やや難
III	記述 計算	(a) 芳香族炭化水素の構造決定 (b) イミドの構造決定	化学	(a) 環境の異なる炭素原子の数から構造を決定する問題である。 (b) イミドの加水分解生成物から構造を決定する問題である。	標準
IV	記述 選択	(a) アルドース (b) 生分解性高分子と界面活性剤	化学	(a) アルドースの立体異性体と, 酸化などの反応を利用したアルドースの構造決定の問題である。 (b) 生分解性高分子のモノマーの構造と, 糖を含む界面活性剤の構造決定に関する問題である。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

1. 理論・無機・有機とまんべんなく学習しておくこと。
2. 化学平衡に関する学習は深めておくこと。
3. 論述問題の対策には、平素から書く練習をしておくこと。
4. 実験に対する探究的な姿勢も養っておくこと。
5. 問題演習を十分に行っておくこと。